「聞く」と「聴く」

夫　明美

この原稿を書いている 6 月中旬は、大学 4 年生と短大 2 年生が各実習校で先生方のご指導を受けながら教育実習に奮闘している時期です。短大の「事前事後指導」の授業内で、例年実習前に受講生と議論することをご紹介したいと思います。また、本内容は 2012 年 12 月のホームページ巻頭言のエッセイ「聞く力」と連動しています。

教育実習の主目的の一つに「生徒に対する理解を深める」ということがあげられると思います。そこで、「生徒を理解しようとする姿勢が相手や周りに伝わるには？」という問いかけを行います。ポピュラーなこたえは「生徒（子ども）と同じ目線にたってコミュニケーションを行う」というものです。そこを踏み込んで「生徒（子ども）と同じ目線にたつってどういうこと？」、と質問を重ねてアイデアをつめていきます。そうすると、「まず、生徒の行動や学習姿勢を注意深く・静かに観察する」という最初の答えに比べると具体性をもったアイデアが出ます。「見守る」や「観察する」に関連した語、「相手の気持ちを推測する・理解しようとする」という表現が学生側から出ることがポイントです。

その後、私からも非常にポピュラーな「漢字の成り立ちの差異による『聴き方の違い』」を提示します。大半の学生は、過去に書物や先生方のお話を通して接したことがあるようですが、以下にご紹介します。

「聞く」は門構えの中に、耳という音声を認識する器官が入っています。一方、「聴く」には、耳以外にも、目と心という字が入っています。相手の様子や状況を観察するための目、相手の心情や彼・彼女らの置かれている環境を想像・理解するための心が入っています。「聞く」よりも自分のもつ五官と心をフルに使用する様子がうかがえると思います。この様子が相手に通じたとき、「自分は受容された」という気持ちが芽生えるのだと思います。

今回は「耳」という語が入ったハワイの格言をご紹介します。上記した漢字のアナロジーとは少々趣が異なりますが、心静かに集中する重要性を説いている点では共通点があるように思います。

Nānā ka maka; hoʻolohe ka pepeiao; paʻa ka waha.

Observe with the eyes, listen with the ears, shut the mouth.

= Thus how one learns.

参考文献

Pukui, M.K. (1983). *ʻŌlelo Noʻeau.* Bishop Museum Press. Honolulu, Hawaiʻi.